

1 研究テーマ

学ばうしきを感じ、確かな学力を身に付ける算数科学習 ～ 1単位時間の指導のあり方を見つめて ～

2 研究テーマ設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「豊かな人間性を培い、自ら考え、正しく判断することのできる本名の子の育成」である。この目標にある「自ら考え、正しく判断する」は、自ら学び、自ら考える力などの主体的な学習意欲や態度、また、多面的な見方で正しく判断する力などを育成していくことをねらいとしている。また、本校の教育課題を「学習のしつけの定着」「基礎的・基本的事項の習熟と個別指導の充実」「教科指導の工夫・改善」と定め、確かな学力を身に付けさせていくことを目指している。

(2) 新学習指導要領から

～学校教育法の改正～
第三十条

② 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

上記からも分かるように、今回の改訂においては、基礎的な知識や技能の習得、課題を解決するための能力の育成、主体的な学習態度を養うことを重視している。また、具体的方針には、発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程の編成を工夫していき、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ることを示している。このことから、算数科学習においては、学習意欲を高め、既習の内容や方法を生かしながら課題を解決していく学習の展開が求められている。

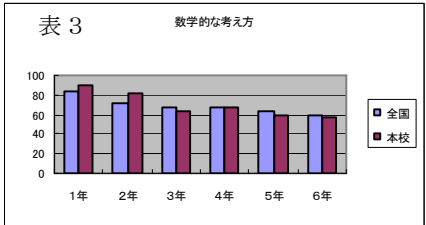
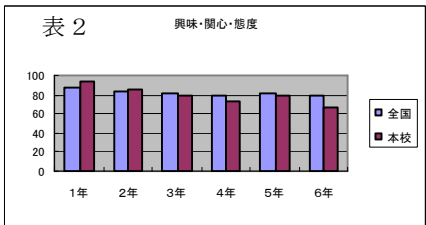
(3) 子どもの実態から

本校は自然豊かな環境に囲まれており、その環境の中でのびのびと生活している。また、純朴で、素直な子どもたちが多い。

学習面は、自分で何とか解決できるように取り組もうとする姿は見られるが、自力解決力には個人差が見られる。また、友達や教師の話をよく聞き、自分の考えをうまく伝えたり、考えを高め合ったりするなど、思考を深め、練り合うような学習を進めるまでには至っていない。表1にあるように、本校の標準学力検査（CRT）の結果は、ここ数年は低下傾向にある。昨年度は上がってはいるが、観点別では、表2や表3にあるように、「興味・関心」は学年が進むに当たって下降傾向を示し、「数学的な考え方」は中・高学年が全国平均より下回っている。このことから、学習への興味・関心を高めていき、確かな学力を身に付けさせていくことは本校の課題である。

表1 ここ数年の標準学力検査（CRT）の結果

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
本校平均	80.4	80.1	79.2	77.7	78.9	79.4
全国平均	77.7	77.7	78.4	78.4	78.4	77.2
対比	+2.7	+2.4	+0.8	-0.7	+0.5	+2.2



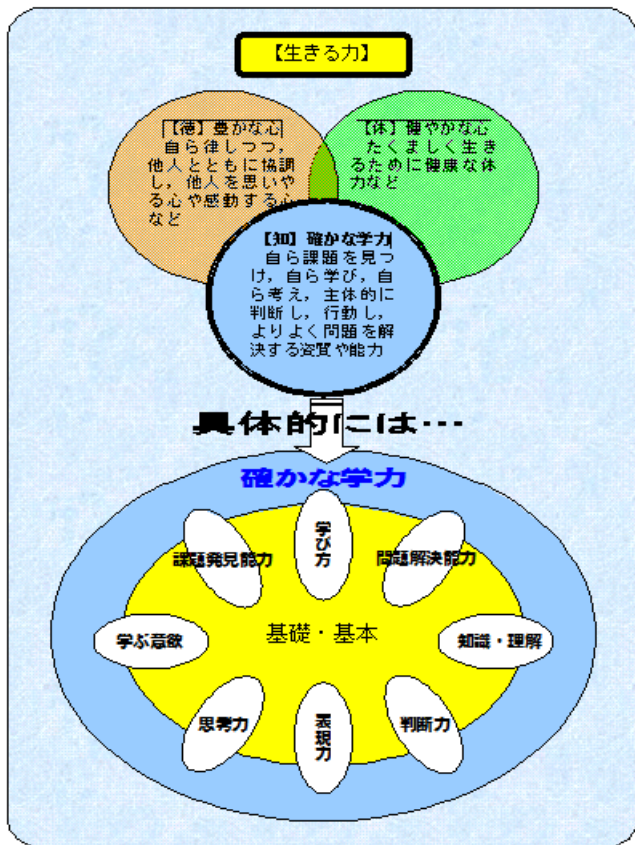
3 研究テーマについて

(1) 「学ぶ楽しさ」とは

本校では、子どもたちが学ぶ楽しさを味わうためには、受動的な学びから主体的な学びとなるような授業を展開していく必要があると考えた。その主体的な学びとは、「子どもたちが課題に対して問題意識を持ち、既習の内容や方法を生かして問題解決に取り組んでいる」姿と、とらえることとした。このような学習を進めていくことで、「この考えを使ったら解けた」「新しい考えや方法を発見することができた」「次は別の方法や考えでやってみたい」などのように、自分で解決できた喜びや算数の本質的な価値に触れる楽しさ、友達と学び合う楽しさ、探究する喜びなどを味わうことができるものと考えられる。そして、このような主体的な学びから感じられる喜びや楽しさは、子どもたちの「学ぶ意欲」を高め、「確かな学力」を身に付けることにつながると考えた。



(2) 「確かな学力を身に付ける」とは



学校では「生きる力」を育むことが求められている。その「生きる力」とは、学習指導要領では「基礎・基本的な内容を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自ら律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるために健康な体力など」と記されている。ここでいう「確かな学力」というのは、その「生きる力」の中で「知」の部分にあたるものであり、「確かな学力を身に付ける」とは、学習指導要領で示された学習内容である「基礎・基本」を基盤として、学び方や学ぶ意欲などの態度面や、問題解決に必要な思考力や判断力、表現力などの能力がバランスよく身に付いた姿を表している。

4 仮説について

(1) 仮説1について

1 単位時間の学習において、導入を工夫し、自力解決力や相互解決力を身に付けさせながら問題解決の学習を展開していくならば、子どもたちは学ぶ愉しさを味わい、確かな学力を身に付けることができるであろう。

～視点～

- 1 単位時間の指導過程のあり方を確立する。 学習課題→・・・→生かすの学習過程
- 導入の工夫を図る。 教材の工夫，課題提示の工夫
- 自力解決力・相互解決力の育成を図る。 ノート指導，ペア学習の設定，
練り上げの工夫

(2) 仮説2について

子どもの実態に応じたT・T指導や少人数指導などの指導形態の工夫・改善を図れば、子どもたちは学ぶ愉しさを味わい、確かな学力を身に付けることができるであろう。

～視点～

- 指導形態の工夫を図る。 T・T指導や少人数指導の確立

(3) 仮説3について

物的環境を整え、業間タイムの工夫・改善を図れば、子どもたちは学ぶ愉しさを味わい、確かな学力を身に付けることができるであろう。

～視点～

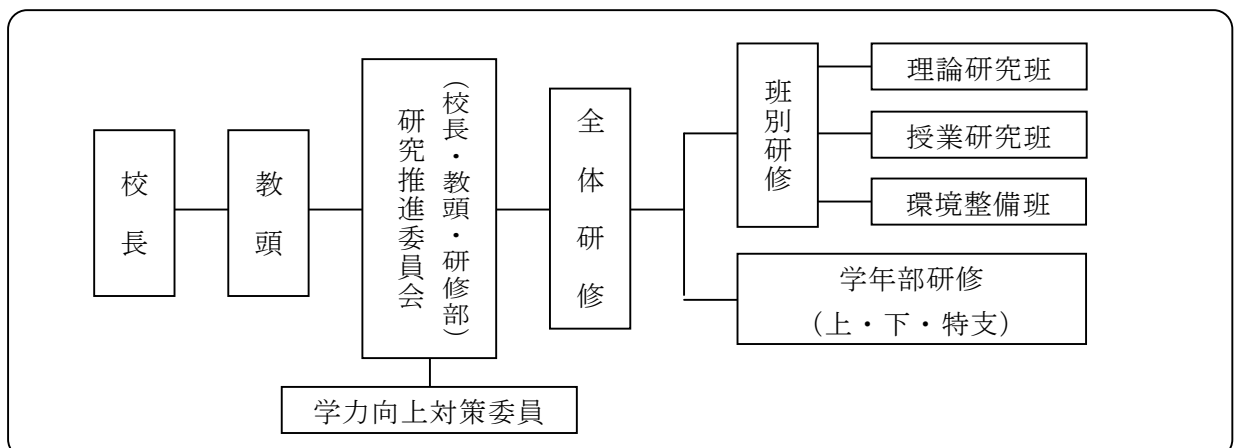
- 物的環境を整える。 校舎内の算数コーナーの設置
- 業間タイムの改善・工夫を図る。 算数チャレンジの実施の仕方，問題作成

5 研究の計画

(1) 研究の方法

- ア 全体・班別研修における理論の提案と共通理解
- イ 日常の授業における実践研究
- ウ 研究授業による仮説の妥当性の検証
 - ・ 各学年1回の授業研究
 - ・ 指導主事派遣を要請しての授業研究
- エ 実態調査や学力テスト等による検証
- オ 学力向上のための全校体制の構築
- カ 自主研修（相互参観）の推進
- キ ステップアップ研修対象教諭との協力体制

(2) 研究の組織



6 年間計画

月	日	曜	テーマ研修	教科・領域等の研修	担 当
4	4	月	全体研修：年間計画の確認	C R T分析 発明くふう	研修・教育方法 発明くふう
	25	月	全体・学年別・班別研修：テーマ研修の確認・理論（指導形態，揭示，ペア学習等）		研修
5	2	月	班別研修：理論（表現力，習熟，思考力等）		研修
	9	月	全体研修：理論（表現力，習熟等）		研修
	23	月	全体研修：指導案検討（3年）		研修
	29	日	班別研修：理論・活動	A E D実技	研修・体育
6	6	月	全体研修：研究授業（3年）		研修
	13	月	全体研修：理論（思考力，特支等）		研修
	27	月	学年部別研修：指導案検討（な・2年）		研修
7	4	月	学年部別研修：研究授業（な・2年）		研修
	11	月	班別研修：各活動		研修
	21	木		生徒指導（カウンセリング等）	生徒指導
	22	金	全体・班別研修：理論・活動（設営，思考力，特支等）		研修
	29	金		特別支援教育	特別支援
8	1	月	班別研修：理論・活動（設営，思考力，特支等）		研修
	2	火		人権同和教育 N R T分析	人権同和教育 教育方法
	18	木	全体研修：理論（設営，思考力，特支等）	I C T	研修・教育方法
	19	金	全体研修：公開に向けた確認1	作文合評会	研修・国語
	30	火	全体研修：指導案検討（6年）		研修
	31	水		英語活動	総合
9	12	月	全体研修：研究授業（6年）		研修
	26	月	全体研修：指導案検討（1年）		研修
10	24	月	全体研修：研究授業（1年）		研修
	31	月		教育課程編成	教務
11	7	月	全体研修：研究成果のまとめ		研修
	28	月	全体研修：公開に向けた確認2		研修
12	5	月	学年別研修：指導案検討（4・5・あ）		研修
	12	月	全体研修：公開準備		研修
	26	月	学年別研修：模擬授業（4・5・あ）		研修
1	10	火	全体研修：指導案検討（4・5・あ）		研修
	23	月	学年別研修：模擬授業（4・5）※4年は模擬授業に代わるものを設定する。	※特別支援部は部会をもつ。	研修
	30	月	全体研修：研究公開の最終確認		研修
2	3	金	研究公開（公開授業4・5・あ）		全体
	6	月	全体研修：研究公開反省		研修
3	5	月	全体研修：本年度のまとめと次年度の方向性		研修

